

## 専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン（平成30年度）

### (1) 学校の概要、目標及び計画

#### 【所在地、連絡先、校長名等】

学校名 愛知ペット専門学校  
校長名 牧 良  
設置者名 学校法人アイピーシー学園  
代表職氏名 理事長 牧 良  
学校所在地 〒444-0813 愛知県岡崎市羽根町鰻池246-1

#### 【学校の沿革・歴史】

設立認可年月日 平成20年2月22日  
設置認可年月日 平成20年2月22日  
開校年月日 平成20年4月1日

#### 【教育活動・カリキュラム・施設・設備・学習環境】

ペットについて体系的な学習環境を提供するため、実践的に学べる環境を重視する。本校では、実習動物と共のびのびと走り回れる広い敷地や、ペットビジネスの現場で役立つ実習のできる施設・設備としてあらゆるIPCグループ（株式会社アイピーシー）のペットビジネス施設を実習に役立てると共に、一人一頭の担当犬を与え、自分で犬を飼うようにして学べる担当犬制度をシステムとしたカリキュラムにより、情操の涵養並びに動物の習性生理を、身をもって理解できる教育活動を実施している。

（関連リンク）[http://aichipet.com/?page\\_id=151](http://aichipet.com/?page_id=151)

#### 【学校の教育目標】

本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従い、社会に貢献しうる有能な人材としてペットの専門家を育成することを目的とする。

#### 【学校の経営方針】

本校の経営方針は、健全なる財務体質を基礎とし、教育指導計画の実現において、全教職員が一丸となって取り組み、学生がペットの専門分野の将来の担い手となるよう教育機関としての責務を果たすこととする。

#### 【教育指導計画】

本校は、「学校の教育目標」を念頭におき、その教育方針を定めることとする。

##### <教育方針>

- ①ペットのライフスタイルにおける「“ゆりかご”から“別れ”まで」を意識し、オールジャンルで活動できる人材育成を図る。
- ②旧来のペット文化にとらわれず、海外の進んだペット文化も取り入れつつ、新たな日本のペット文化の担い手を育成する。
- ③地域・各団体と連携し、ペットへの理解と正しい知識の啓蒙活動を積極的に実現できる人材育成に努める。

##### <目指す学校>

- ①目指す学校像
  - ア 創造性や先見性のある学校
  - イ 学生の満足度が高い学校
  - ウ 地域・業界から信頼される学校
- ②目指す生徒像
  - ア 自主・創造の精神に溢れた生徒
  - イ 動物を慈しみ、命を守ることにに対する責任感を持った生徒
  - ウ 逆境を跳ね返す心身ともにたくましい生徒
- ③目指す教師像
  - ア 教育に対する高い志と使命感を持った教師
  - イ 授業力・指導力向上を目指し、常に自己研鑽に励む教師
  - ウ 共感的態度と協働の精神に溢れた教師

##### <重点目標>

- ①ペットとのふれあいの中から、動物の状態を肌で理解できる実践的な事業者を輩出させる。
- ②実習から学ぶ重要性を認識させるとともに、さらなる探究心をやどさせ、新しい分野を切り開く力を構築させる。
- ③将来の事業人として、社会的責務や責任ある行動を熟知させ、ペット業界で何をすべきかの志を高くかかげさせ、その実現性への一步を踏ませる。

(2) 各学科等の教育

【各学科の定員数、入学者数、在學生徒数】

平成30年5月1日現在

学科	修業年限	総定員数	入学者数	在學生徒数
ペットトリマー科	2年	40人	18人	28人
ドッグトレーナー科	2年	40人	14人	30人
動物看護科	2年	40人	8人	25人
ペットアドバイザー科	2年	40人	3人	10人

【進級・卒業の要件等（成績評価基準、卒業・修了の認定基準等）】

各学期末に行う試験、実習の成果や出席時数等の履修状況等を総合的に勘案して成績評価を行う。また、2年の修業年限以上の在学及び開設する授業科目の成績評価に基づく課程修了の認定を受けた者に卒業認定を行う。

【学習の成果として取得を目指す資格等】

資格・検定の名称	資格・検定の概要
日本愛玩動物協会 愛玩動物飼養管理士	ペットの愛護及び適正な飼養管理の普及啓発活動などを行うために必要な知識・技能を学びます。
全国ペット協会（ZPK） 家庭動物管理士	ペットを扱う上で欠かせない知識を学びます。生体に関する知識だけでなく、関連法令や衛生管理、接客の基本まで幅広く学びます。
日本動物専門学校協会（NAVA） ペットケアアドバイザー	主に犬・猫の飼育方法、身体の仕組み、基本的な疾患など、ペットを扱う上で必要となる基本的な知識を習得します。
日本動物専門学校協会（NAVA） トリマー	「スタンダードを理解したペットトリマーの育成」という指針で、確かな専門知識と技術向上、そして社会的ニーズに沿うことを目標とした資格です。
日本動物専門学校協会（NAVA） ドッグトレーナー	犬の学習原理、しつけ訓練の進め方などドッグトレーニングに必要な知識と技術、飼犬の問題行動に対するカウンセリング・テクニックを学びます。
日本動物専門学校協会（NAVA） ドッグブリーダー	犬本来の習性や形態等の理解、関係法令の順守を前提として、顧客満足度を高めることを目的とした販売活動等を学びます。
国際ペットカルチャー協会（IPC） Veterinary Nurse	オーナー対応、検査方法、手術準備等動物看護師として必要な専門知識・技術を習得するための資格です。
ペットエステ国際協会（PEIA） BRONZE Class/SILVER Class	犬に対するタラソセラピーやアロマセラピー、アンチエイジングなど健康と癒しの技術を学びます。
日本ペットシッター協会 ペットシッター士	ペットの置かれた生活空間を良く理解し、必要があればオーナーに適切なアドバイスもできる。ペットにもオーナーにも信頼されるペットシッターを目指します。
動物看護師統一認定機構 動物看護師統一認定試験	動物看護職の知識・技術の高位平準化の推進、適正な獣医療の提供体制の整備に寄与することを目的とした全国統一試験です。
日本商工会議所 リテールマーケティング販売士検定	小売店舗運営の基本的な仕組みを理解し、販売員としての基礎的な知識と技術を身につけます。
日本損害保険協会 損害保険募集人	保険代理店であるペットショップで顧客に対して保険商品を勧誘・契約する際に必要な資格です。
日本商工会議所 PC検定	データ活用では、表やグラフの作成、業務データの処理を行い、的確なデータ分析や効果的な資料の作成等を目指します。
実務技能検定協会 ビジネス系検定	ビジネス実務マナー検定やビジネス電話検定、秘書検定など、各分野に特化した内容で、より実務的な学習ができます。
職業教育・キャリア教育財団 ビジネス能力検定	社会人に必要な仕事の能力を評価する試験です。就職（就活）前におさえておきたいビジネス知識や社会人のマナーなどを学びます。

【卒業生数、卒業後の進路（就職者数・主な就職先）】

平成 29 年度末 (H30.3)	合計
在籍者数 (H29.4)	38 人
卒業生数 (H30.3)	35 人
就職希望者数	33 人
関連分野就職者数	33 人
関連外分野就職者数	0 人
内定取消者数	0 人
進学者数	1 人
就職率 (希望者)	100%

【カリキュラム（科目配当表等）】

<ペットトリマー科>

科目区分	1年次					2年次					
	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	
教養的科目	ペット一般教養Ⅰ	1後	15	1	講義	ペット一般教養Ⅱ	2通	30	2	講義	
	特別活動Ⅰ	1通	60	2	実習	特別活動Ⅱ	2通	60	2	実習	
共通科目	専門基礎科目	共通基礎	1前	60	2	実習	ゼミナール	2通	30	2	演習
		各科実習	1前	60	2	実習	課題研究	2通	45	3	演習
		動物形態機能学Ⅰ	1前	30	2	講義					
		病原体・衛生管理	1通	30	2	講義					
		動物健康管理	1前	15	1	講義					
		動物医療関連法規Ⅰ	1前	15	1	講義					
		動物行動学Ⅰ	1前	45	3	講義					
		飼養管理学Ⅰ	1後	15	1	講義					
専門科目	専門科目	専科講義	1後	15	1	講義	トリミング学	2通	15	1	講義
							基礎接客対応	2通	15	1	講義
							犬舎実習	2通	90	3	実習
							ベーシックテクニックⅠ	2前	30	1	実習
							トリミングテクニックⅠ	2前	150	5	実習
							トリミングテクニックⅡ	2後	180	6	実習
							飼育管理実習Ⅱ	2通	220	7	実習
		職業実践科目	職業実践科目	インターンシップ	1通	30	1	実習	エステティックテクニック	2通	30
飼育管理実習Ⅰ	1通			90	3	実習					
動物飼育実習Ⅰ	1前			45	1	実習					
動物飼育実習Ⅱ	1前			90	2	実習					
動物飼育実習Ⅲ	1後			90	2	実習					
専科実習	1通			255	8	実習					
		17	960	35			12	895	34		
						計	29	1855	69		

<ドッグトレーナー科>

科目区分	1年次					2年次					
	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	
共通科目	教養の科目	ペット一般教養Ⅰ	1後	15	1	講義	ペット一般教養Ⅱ	2通	30	2	講義
		特別活動Ⅰ	1通	60	2	実習	特別活動Ⅱ	2通	60	2	実習
	専門基礎科目	共通基礎	1前	60	2	実習	ゼミナール	2通	30	2	演習
		各科実習	1前	60	2	実習	課題研究	2通	45	3	演習
		動物形態機能学Ⅰ	1前	30	2	講義					
		病原体・衛生管理	1通	30	2	講義					
		動物健康管理	1前	15	1	講義					
		動物医療関連法規Ⅰ	1前	15	1	講義					
動物行動学Ⅰ	1前	45	3	講義							
飼養管理学Ⅰ	1後	15	1	講義							
専門科目	専門科目	専科実習	1通	270	9	実習	高等訓練学	2通	15	1	講義
							専科選択科目	2通	45	3	講義
							犬舎実習	2通	90	3	実習
							飼育管理実習Ⅱ	2通	220	7	実習
	職業実践科目	インターンシップ	1通	30	1	実習	訓練実習Ⅲ-1 オビディエンス	2通	120	4	実習
飼育管理実習Ⅰ		1通	90	3	実習	訓練実習Ⅲ-2 パフォーマンス	2通	90	3	実習	
動物飼育実習Ⅰ		1前	45	1	実習	専科選択実習	2通	90	3	実習	
動物飼育実習Ⅱ		1前	90	2	実習	能力開発実習	2通	60	2	実習	
動物飼育実習Ⅲ		1後	90	2	実習						
		16	960	35			12	895	35		
							計	28	1855	70	

<動物看護科>

科目区分	1年次					2年次					
	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	
共通科目	教養の科目	ペット一般教養Ⅰ	1後	15	1	講義	ペット一般教養Ⅱ	2通	30	2	講義
		特別活動Ⅰ	1通	60	2	実習	特別活動Ⅱ	2通	60	2	実習
	専門基礎科目	共通基礎	1前	60	2	実習	ゼミナール	2通	30	2	演習
		各科実習	1前	60	2	実習	課題研究	2通	45	3	演習
		動物形態機能学Ⅰ	1前	30	2	講義					
		病原体・衛生管理	1通	30	2	講義					
		動物健康管理	1前	15	1	講義					
		動物医療関連法規Ⅰ	1前	15	1	講義					
専門科目	動物行動学Ⅰ	1前	45	3	講義						
	飼養管理学Ⅰ	1後	15	1	講義						
	公衆衛生学	1後	30	2	講義	動物形態機能学Ⅱ	2通	120	8	講義	
	動物人間関係学	1後	30	2	講義	動物病理学	2前	30	2	講義	
	動物行動学Ⅱ	1前	15	1	講義	動物疾病看護学	2通	150	10	講義	
	動物福祉論	1後	30	2	講義	動物薬理学	2後	30	2	講義	
	飼養管理学Ⅱ	1通	45	3	講義	動物感染症学Ⅰ	2前	30	2	講義	
	動物看護学	1前	15	1	講義	動物感染症学Ⅱ	2前	30	2	講義	
	臨床動物看護学	1後	90	6	講義	動物栄養学Ⅰ	2前	30	2	講義	
	動物臨床検査学	1後	30	2	講義	動物栄養学Ⅱ	2後	45	3	講義	
	救急救命対応	1後	15	1	講義	動物医療関連法規Ⅱ	2前	15	1	講義	
						動物繁殖学	2後	15	1	講義	
						動物入院管理	2前	30	1	実習	
						幼齢動物・高齢動物管理	2後	30	1	実習	
						クライアントエデュケーション	2前	30	1	実習	
						動物看護実習Ⅱ	2通	135	3	実習	
						動物臨床検査学実習Ⅰ	2通	90	2	実習	
						動物臨床検査学実習Ⅱ	2通	135	3	実習	
						外科動物看護実習Ⅰ	2後	45	1	実習	
						外科動物看護実習Ⅱ	2後	45	1	実習	
職業実践科目	インターンシップ	1通	30	1	実習	総合臨床実習	2通	135	3	実習	
	飼育管理実習Ⅰ	1通	90	2	実習						
	動物飼育実習Ⅰ	1前	45	1	実習						
	動物飼育実習Ⅱ	1前	90	2	実習						
	院内コミュニケーション	1通	75	2	実習						
	動物看護実習Ⅰ	1後	90	2	実習						
		25	1065	47		計		48	2400	105	

<ペットアドバイザー科>

科目区分	1年次					2年次					
	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	授業科目名	配当 学期	時数	単位	授業 方法	
共通科目	教養的科目	ペット一般教養 I	1後	15	1	講義	ペット一般教養 II	2通	30	2	講義
		特別活動 I	1通	60	2	実習	特別活動 II	2通	60	2	実習
	専門基礎科目	共通基礎	1前	60	2	実習	ゼミナール	2通	30	2	演習
		各科実習	1前	60	2	実習	課題研究	2通	45	3	演習
		動物形態機能学 I	1前	30	2	講義					
		病原体・衛生管理	1通	30	2	講義					
		動物健康管理	1前	15	1	講義					
		動物医療関連法規 I	1前	15	1	講義					
専門科目	専門基礎科目	動物行動学 I	1前	45	3	講義					
		飼養管理学 I	1後	15	1	講義					
		専科講義	1後	45	3	講義	ペットショップマニュアル	2通	30	2	講義
							動物感染症学 I	2前	30	2	講義
							動物栄養学 I	2前	30	2	講義
							動物繁殖学	2後	15	1	講義
	専門科目						幼齢動物・老齢動物管理	2後	30	1	実習
							専科実習 II	2通	315	10	実習
職業実践科目	インターンシップ	1通	30	1	実習	ペットショップ実習	2通	60	2	実習	
	飼育管理実習 I	1通	90	3	実習	飼育管理実習 II	2通	220	7	実習	
	動物飼育実習 I	1前	45	1	実習						
	動物飼育実習 II	1前	90	2	実習						
	動物飼育実習 III	1後	90	2	実習						
	専科実習 I	1通	225	7	実習						
		17	960	36			12	895	36		
							計	29	1855	72	

### (3) 教職員

#### 【教職員数（職名別）】

平成30年5月1日現在

	専任	兼任	計
教員	4人	22人	26人
職員		4人	4人
計	4人	26人	30人

#### 【教職員の組織・活動】

「研修委員会」を設置し、最低でも年2回会合を実施することを規定に定め、最新のペット業界の動向等を把握し、必要な研修等を計画、実施する。

### (4) キャリア教育・実践的職業教育

#### 【キャリア教育への取組状況】

「産学連携」をテーマに地域交流及び公開授業等の強化を図る。ZPK全国ペット協会、NAVA日本動物専門学校協会とのネットワークを最大限活用し、各科の教育方針に新しい風を吹き込み、教育課程の編成に取り組んでいる。

#### 【実習・実技等の取組状況】

平成29年度第2回教育課程編成委員会資料より抜粋

(ペットトリマー科)

##### ①NAVAライセンス資格試験の目標と周知、標準化

1人1頭2時間仕上げを随時意識して練習を行う。また、2項目も仕上げる目標を立て、時間配分や効率よく仕上げることを考えさせて仕上げることを意識させる事ができた。ライセンスの結果については、3級11名全員合格、2級14名全員合格、1級5名中5名合格。

##### ②全国トリミングコンテスト

今回は、1年生3名、2年生2名、合計5名のエントリー。去年同様、ナゴヤドームでの大きな会場でもあり、よい緊張感を持ちながらできていたと思う。結果としては、入賞には至らなかったが、点数評価で、5位の評価を2年生の部門から得たことは今後の自信にもつながった。

(ドッグトレーナー科)

①2年間で4つ以上の資格取得を目標とし、H29年度3月卒業生は、5～8つの資格をもって卒業させることができた。

②1年次後期にペットシッター士試験を受験させることを予定通りH30年1月に受験し、100%合格となった。

③NAVAドッグトレーナーライセンス100%合格率の維持と平均点5%アップについては、1級実技試験の内容の変更を十分考慮して授業計画を立てたが、訓練の仕上げが間に合わず目標達成とならなかった。来年度の授業計画を見直していく。

##### ④全国ドッグトレーニング大会

今年度は、1年生2名、2年生3名の5名がエントリー。1位～5位までを独占することができた。他校の学生に比べ、緊張しすぎている様子がみられると判定員から意見をを受けた。

(動物看護科)

①本年度も引き続き、ビジネスマナーの向上を掲げ、挨拶運動を積極的に推進している。メモをとることや個々の課題のリストアップを習慣付けるため、指導を継続している。

②学生自身に考えさせる授業も取り入れた。「安楽死について」「看護動物の管理」等テーマを設け、グループディスカッションを行ったり、レポートで自分の考えをまとめさせる等、学生が主体となり考え、行動させた。結果、自然とグループをまとめる者、意見を紙面にまとめる者などが現れ、グループ内でのコミュニケーションが増え、コミュニケーションロスが減少した。

③H29年4月からH30年3月の間で動物看護師統一認定資格対策授業を270時間、予定通り実施できた。

H29年度結果は、7名受験うち6名合格となった。全国平均を上回るものの目標にあと一步届かなかった。学習意欲の維持が難しかったこと、諦めてしまう学生に対する指導方法が今後の課題とする。

(ペットアドバイザー科)

①資格取得について推進、サポート授業を徹底した。科全体の資格合格率は91%、一人当たりの平均資格取得数は7つとなった。資格取得率が向上したことは、就職活動においてもプラスに働いた要因と考えられる。また、資格取得により自己啓発習慣が付き、学習意欲の向上にも繋がった。

#### 【就職支援等への取組状況】

1年次では全学生に対しペットパーク等でのインターンシップを実施（「インターンシップ」通年30単位時間）、社会人としての基礎マナー等を身に付け、2年次での就職活動に移行できるよう、産学連携という最大のメリットを活かした就職支援を実施している。

(関連リンク) <http://aichipet.com/?p=4902>



(5) 様々な教育活動・教育環境

【学校行事への取組状況】

動物飼養施設の清掃及び定期的な消毒等のもとより、学校敷地周辺地域の清掃活動を通して、動物飼養施設周辺環境保全並びに地域の美化活動に努めている。また、平成25年5月より岡崎市環境部の「イエローカード大作戦」に参加、ペットの糞対策への取り組みを継続している。

【課外活動に対する支援体制への整備】

ペット関連事業における外部団体でのコンクール参加または研修等を積極的に行うよう教務部では指導を行っている。また、就職部からも就職に直結するような研修はより積極的に参加を呼びかけ、その参加状況や外部の企業団体からその状況のアンケート等を実施し、本課内での指導を改善できるように行っている。

(6) 学生の生活支援

【学生支援への取組状況】

学生からの学内における全ての一次的な窓口として担任制を機能させている。学生の進路、生活面等の相談窓口となり、随時個人面談等を実施している。また、学生の健康管理のため年に1度全学生を対象として定期健康診断を実施している。

(7) 学生納付金・就学支援

【学生納付金の取扱い】

授業料・入学金の費用に関する金額については各年度に発行される募集要項に記載された金額とし、その徴収時期に関しては原則として下表の通り設定する。

入学金		前期授業料ほか	後期授業料ほか
入学時 (1年次)	合格日より10日以内	合格日より1ヶ月以内	8月
2年次 (進級時)	なし	1年次在学中の2月	8月

【学費及びその他の費用】

	施設管理費	実習費	授業料	合計
一年次前期	84,000	136,500	315,000	535,500
一年次後期	84,000	136,500	315,000	535,500
二年次前期	84,000	147,000	315,000	546,000
二年次後期	84,000	147,000	315,000	546,000

※入学時教材費、実習ユニフォーム費用、専科決定時及び2年次進級時には専攻学科別による別途教材費、実習ユニフォーム費が必要。また、学校行事、各種資格検定等の受験・取得時には別途諸費用を要する。

(参考：平成29年度)

学科	教材費等
ペットトリマー科	379,829円
ドッグトレーナー科	272,024円
動物看護科	224,208円
ペットアドバイザー科	289,002円

【活用できる就学支援措置の内容等】

本校では、学生納付金等の納付等に係る支援として、学校独自に「IPC特待生制度」を設け、各種奨学金または教育ローンの紹介等を実施している。

(関連リンク) <http://aichipet.com/?p=4963>

(8) 学校の財務

- ・財産目録 <http://aichipet.com/wp-content/uploads/2018/08/APC.zaisan.H30.pdf>
- ・貸借対照表 (収支計算書) <http://aichipet.com/wp-content/uploads/2018/08/taishakuH29.pdf>

(9) 学校評価

自己評価及び学校関係者評価報告書

[http://aichipet.com/wp-content/uploads/2018/08/hyouka\\_h.30.4.pdf](http://aichipet.com/wp-content/uploads/2018/08/hyouka_h.30.4.pdf)